

Ⅱ 育てたい生徒像と改編対象校について

札幌市教育委員会では、21世紀の札幌市の教育推進の方向性を示す「札幌市教育推進の目標及び指針」を策定するとともに、それを受けて、各学校において取り組むべき内容として、「札幌市学校教育の重点」を示しています。

この「札幌市学校教育の重点」において、“学ぶ力の育成”、“豊かな心の育成”、“健やかな身体の育成”、“信頼される学校の創造”を学校教育の4つの柱と位置付けるとともに、「札幌らしい特色ある学校教育」の展開という観点から、“雪”、“環境”、“読書”をテーマとした学習活動などを推進することとしています。これらの取組により、「ふるさと札幌」に根ざした豊かな感性や人間性、生涯にわたる学びの基盤を身に付け、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」を培い、心の中に「ふるさと札幌」の意識を持ちながら、将来の札幌を支えたり、世界で活躍したりするような「自立した札幌人」の育成を目指しています。

中学校と高校の時期は、生徒にとって自己を確立し、大人となる基礎を培う重要な時期です。この時期に、生徒一人ひとりが自己の在り方や生き方を考え、将来の進路を主体的に選択する能力や態度を身に付けるとともに、社会についての認識を深めること、学習を通じて能力や個性の一層の伸長と自立を図ること

と、様々な体験活動や課外活動等の中で学校内外の多くの人と出会いながら自らを高めていくことなどは、生涯にわたる学習の基盤の形成にとって不可欠の過程でもあります。

また、近年、科学技術の高度化や情報化、グローバル化が急速に進み、こうした社会の急激な変化に対応するために、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して未知の問題や複雑な課題を解決する力、他者を受容し関係を築く力など、豊かな人間性を含む「総合的な知性」がますます必要とされており、各個人が自立した一人の人間として現代社会を生きていくために、生涯にわたって生徒自身が主体的に学び続けていくことが求められています。

こうした現代の教育に求められているものなどについても考慮しつつ、これまでの中高一貫教育に関する検討内容を踏まえて、札幌市で設置する中高一貫教育校における「育てたい生徒像」、「育てたい力とはぐくみたい心」、を次のように整理したうえで、改編対象校を選定しました。

1 育てたい生徒像

6年間の連続した学びを生かして、札幌で学んだというアイデンティティを持ちながら、将来の札幌や日本を支え国際社会で活躍する、知・徳・体のバランスのとれた「自立した札幌人」を育てます。

札幌らしい特色ある学校教育キャラクター^{注2}



ちっきゅん
(環境)



ゆっぼろ
(雪)



おっほん
(読書)

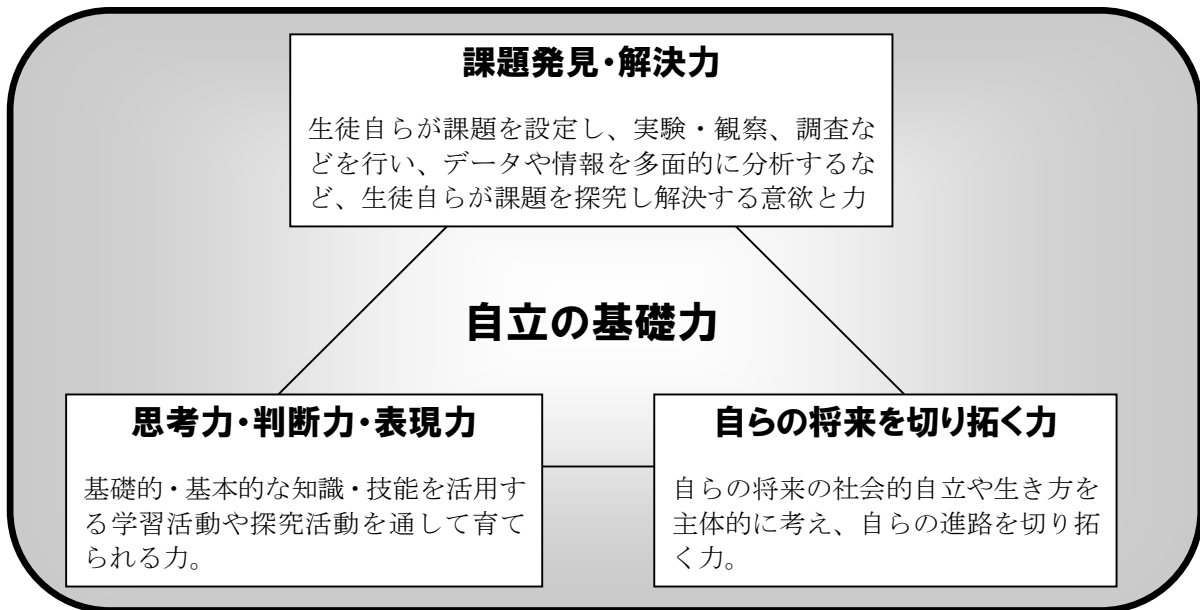
^{注2} 札幌らしい特色ある学校教育キャラクター

子どもたちが「札幌らしい特色ある学校教育」の【雪】【環境】【読書】にかかわる学習に親しみをもって取り組めるよう、札幌らしい特色ある学校教育キャラクターの作成を、札幌平岸高等学校デザインアートコースに依頼するとともに、キャラクター名を市立幼稚園・学校の子どもたちから募集して決定しました。

2 育てたい力とはぐくみたい心

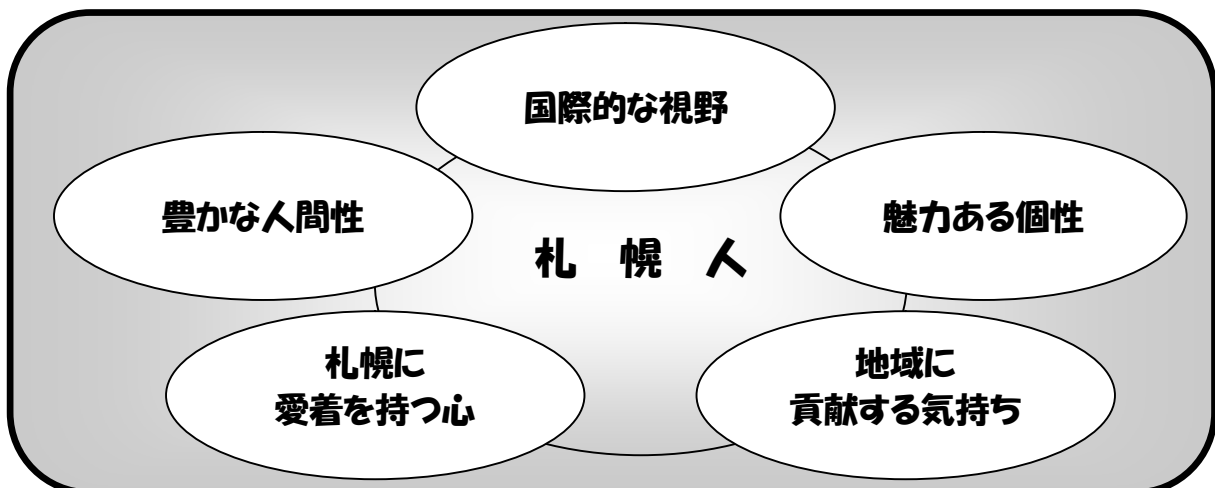
(1) 育てたい力

生徒の「なぜだろう」という素朴な疑問から出発し、生徒自らが課題を設定し、多面的に物事を捉えたり、情報を収集・分析し評価したりすることなどを通して、**課題発見・解決力**や**思考力・判断力**を育てるとともに、考察した内容をまとめ、それを発表したり討論するなど、ともに学ぶ仲間と高め合う取組を通して、豊かな**表現力**を育てます。また、各教科の学習や特別活動等を通じて、自らの将来の社会的自立や生き方を主体的に考え、**自らの将来を切り拓く力**を育てます。これらの力を育てることにより、変化の激しい現代社会を力強く生きていくための**自立の基礎力**を育てます。



(2) はぐくみたい心

地域の大人や世界の人々、異年齢の子どもたちとの交流をはじめとする多様な社会体験や自然体験を通して、他人を思いやる心、感動する心などの**豊かな人間性**や**魅力ある個性**、**国際的な広い視野**とともに、**札幌に愛着を持つ心**や**地域に貢献する気持ち**をはぐくみます。



3 改編対象校選定の考え方

改編対象校については、「6年間を通した学びの連続性」などの中高一貫教育の特徴を生かすことで、将来の札幌を支え国際社会で活躍する自立した札幌人を育成することに加え、現在進めている特色ある教育内容が発展・充実する市立高校であることが条件であると考えます。

また、中高一貫教育校には、小学校卒業段階から生徒が入学し、多感な6年間を過ごすこととなり、在学中に様々な進路希望が生じることが予想されることから、改編対象校は、こうした生徒の多様なニーズに対応し、文系・理系を問わず生徒一人ひとりの進路希望に対応した多様な学びのできる教育内容であることが適当であると考えます。

こうした観点から改編対象校を考えたとき、市立高校の特色ある取組の中で、開成高校のコズモサイエンス科は、実験・観察・体験を重視した学習を通して豊かな科学的教養や論理的思考力、発信型の英語力を身につけ、将来、様々な分野において、将来の札幌を支え国際社会で活躍する人材の育成を目指しており、中高一貫教育校に改編することで、自然科学をはじめ社会科学・人文科学を表す広い意味の「サイエンス」を、より深くバランスよく学ぶことが可能となることから、これまで以上に特色ある教育を推進し、生徒の多様な進路希望にも対応可能であると想定されます。

? コズモサイエンスって？（学校紹介パンフレットから抜粋）

COSMOS【読み：コスモス、意味：宇宙】やCOSMOPOLITAN【読み：コスモポリタン、意味：国際人】を表すCOSMO（コスモ）という造語と、自然科学をはじめ社会科学・人文科学を表す広い意味のSCIENCE（サイエンス）を組み合わせ創ったことば。この学科の方向性を示しています。

加えて、改編対象校選定に当たっては、札幌市内全域からのアクセスの観点や施設整備に伴う財政的観点についても考慮する必要があります。

◆ アクセスの観点

通学区域については、中高一貫教育を望む市内の児童に対して公平に入学の機会を提供するため、札幌市内全域を通学区域とします。よって、改編対象校は、全市から通学しやすい交通利便地に立地し、特に、積雪寒冷地である札幌市においては、冬期間の通学を考慮すると、積雪の影響を受けにくい地下鉄駅から徒歩圏内にあることが望ましいと考えます。

◆ 施設整備に伴う財政的観点

既存の市立高校を中高一貫教育校に改編することから、中学校の教育課程に対応するための教室整備（技術関係諸室等）や中学校段階への給食提供のための給食配膳室の整備など一定程度の増改築が必要となります。施設整備に伴う費用対効果を勘案すると、新しい校舎に増築・一部改修を実施するか、または、改築時期が近づいている校舎の全面改築を実施することが望ましいと考えます。

以上のことから、札幌市が設置する中高一貫教育校の改編対象校として最もふさわしい市立高校は、開成高校であると考えます（想定される教育内容についてはP 9以降に記載）。

なお、改編に当たっては、校名や校歌の継承を含め、改編対象校の伝統を踏まえつつ、新しい学校づくりを進めていくことを考えています。

＜参考＞各市立高校（定時制課程を除く）における特色ある教育内容等一覧

	教育の特色	アクセス	校舎の 築年数 (平成22年 4月時点)
旭丘高校	○ 単位制 未来志向で物事を展望し、社会課題や学問研究に対する興味 関心を持った幅広い教養を身につける観点から単位制を導入	最寄の地下鉄 駅からバス	8年
開成高校	○ コズモサイエンス科（1学年2学級） 実験・観察・体験を重視した論理的思考力の育成を目指した 探究型の学習や発信型の英語力の育成を推進	最寄の地下鉄 駅から徒歩	47年
藻岩高校	○ 環境教育 各教科における「環境」をテーマとした学習や環境にやさし い学校祭など、環境を柱とした学習活動を展開	最寄の地下鉄 駅からバス	36年
清田高校	○ グローバルコース（1学年1学級） ネイティブスピーカーを積極的に活用するなどして、高度な 英語力を育てるとともに、異文化体験による豊かな国際感覚を 育成	最寄の地下鉄 駅からバス	33年
新川高校	○ フロンティア・エリア制（平成21年度入学生より実施） 2学年次から3学年次にわたり段階的なエリアに分かれて、 高大連携を生かした各エリア独自の学校設定科目を学習し、「社 会人基礎力」等を育成	最寄の地下鉄 駅からバス	31年
平岸高校	○ デザインアートコース（1学年1学級） 様々な分野の外部専門家による講義や実習を行い、専門的な 技術の習得やアートやデザインを読み解く力を育成	最寄の地下鉄 駅から徒歩	30年
啓北商業 高校	○ 未来商学科 社会の要請に対応した商業教育の観点から、情報活用能力の 育成を重視するとともに、2年生から会計コース、情報コース、 国際コースを設定し、幅広い進路に対応できる教育課程を編成	最寄の地下鉄 駅からバス	29年